

【熊本県教育委員会】＜成果イメージ＞ 日本語指導推進事業

現状・課題

＜県全体の状況＞

- 日本語指導を必要とする児童生徒は増加及び多国籍化傾向
- 対象児童生徒は県内各地に点在し、地域によって支援ニーズが異なる

＜日本語指導拠点校＞

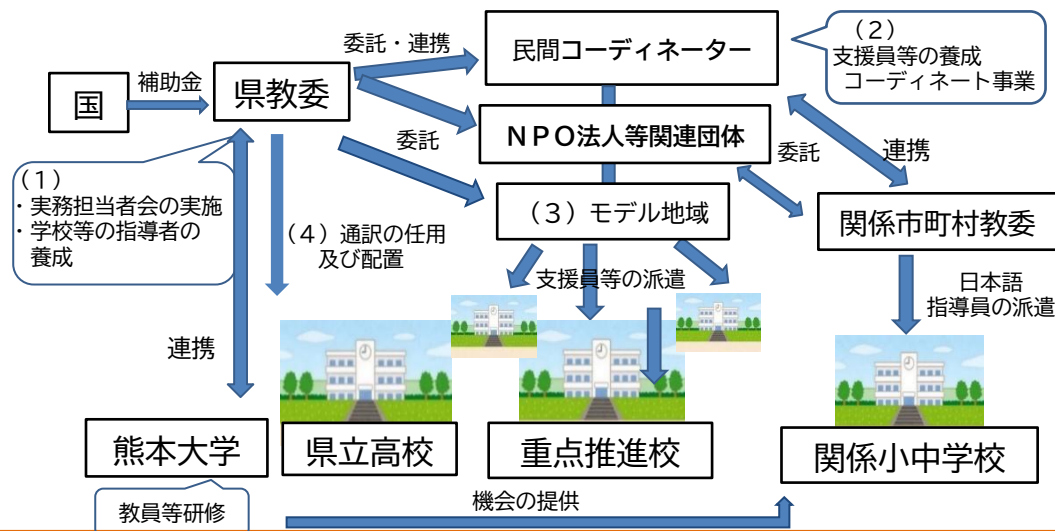
- 菊陽町立武蔵ヶ丘小学校、大津町立室小学校
菊陽町立武蔵ヶ丘中学校、県立北高等学校

＜課題＞

- 日本語指導を必要とする児童生徒の受入や支援体制について市町村によって差が見られる。また、日本語指導の指導力が不足している。
- 日本語指導を必要とする児童生徒への支援体制の充実を県全体で図っていく必要がある。

事業概要

- (1) 日本語指導指導者養成事業
日本語指導ができる人材の育成
- (2) 日本語指導支援員等派遣事業
日本語指導員等の任用に対する菊陽町への補助
- (3) 日本語指導コーディネート事業
指導員等の人材確保及び養成を民間に委託
- (4) 進路ガイダンスの実施
多言語による説明会をNPO法人に委託
- (5) 日本語指導モデル地域事業
モデル地域による取組の拡充と横展開
- (6) 県立高校への通訳・教育支援員の任用及び配置



成果

- 日本語指導に関わる教員等を対象とした研修会や連絡協議会の実施により、教員等の知識・理解が深まり、日本語指導が必要な児童生徒に適切な教育の機会を提供できる体制づくりにつながった。
- コーディネート事業や進路ガイダンス等について専門的知識を有する団体に委託した結果、学校現場及び児童生徒が必要とする支援を受けられる体制が着実に整備されつつある。
- モデル地域事業を市町村に委託した結果、協議会の設置や重点推進校における日本語指導体制の構築が段階的に図られつつある。